芳春帖
中

享和四甲子年

歳旦

元日

蘓雪菴

春興　千代

折り敷く八重の畳の二月の雪
世の中の　仝
煙りの中や五湖の棹さす
船ハ浮れ

春興

畑の中の麻布よ
吉野の七日の糸
麻衣や梅の香ぶくり
梅乃まくれ

雪登斎
不騫

[illegible]や　宮後の里
七つさうまめ
都まうで　此
[illegible]の[illegible]よ　梅の花
孤松館
連潮

[illegible]の宮や　生ちう宿乃
[illegible]かしハ
雨ひ[illegible]すく後の
落まゝ　[illegible]り
松風園
蘭尼

[illegible]の言葉に
[illegible]
[illegible]
[illegible]の
[illegible]

吉湾

瑞葉堂
雪井

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

壺月斎
伯瑩

甲子霞月彩色

三月七日みやこ行きの
二十日ころ
糸引き
桜八下中き
雲龍室
錦糸

素無白雪梅後

梅もんもの名ふ

武蔵国柳下亭梅今連

斗水

清香しし梅後むる三十日

、

春をれて十ちの吟 梅和尚

文枝

人めもよくよ高の猫

、

降ふ心こ雪の東ふ

素古

梅さく十花ふ梅後仕侍ふ

、

打ちとて加ふ八雅月の梅

梅後

山路に山田を作る百姓の梅、
あるじの梅ちる面影や　一塵
梅ゝや書戸明るを八畳の先、
あるゝ八仞ひとり桜　女木　毎
人ゝや植て宿る梅の雪、
さらぬ人の苔ゝや門乃梅　嶋十
梅咲や袖ふる浦を畑の花　川
馬ぞ来ぬ苔ゝ竹けやけの雪　梵義　荷金

草程
、
戸尾
、
三来
、
谷蕾
、

風むかふの梅ゝ面とし
雪ゝ落ゝ梅の枝ゝ
風ゝのしろやゝめの面影
ゝ桜ゝ武蔵桜の梅
身の梅ゝ雪ゝ雪をし
ひめゝよ辰れん月の雪
庵の雪ゝ日の二ゝ浦の梅
梅よ身古ゝ雪ゝ桜ゝ

梅雪の梅と雪の白と紅と　不朴

雪の梅　知水（吉年坊柳下連）

千所の四つ目垣に星の如く咲き　菊雄

終夜や又伊勢の八神の殿　

三月やいとゝ長閑の雨　

情なしや雪の中なる春の蝶　

くらがりの一本の梅の香　素義

雪や和歌の浦の新底をし　

雪の社なりけるも杉の森　也川

漁夫の家の四つ目垣の柳　

雪ふる旭の影の小藪陰　翁丈

雪ふる中の日蔭の柳　

雪ふる中の人ふる春の歌　湖東

雪の花乃ふる山路　

ふるの八ツ目の柳　（上嵯峨　柳雪）

けふの雪やふりて入る足の跡　、

、数寄川またのよ乃柳かな

老君当
柳下連　虚呆

明鐘なりて書も来たり月の梅

、鶯や潮に新たく日和あり　魚仙

みるたひの間者に旅川書

、さくらともてなし花に梅の枝　半川

きやくしと霊森なとひし　梅の書　、

君か代や四海によくつゝむる

仝大坂　一巴

、梅かゝや隣とくしり宿の道

仝東　素門

折にも梅よ声けて佳曲見

、とし表なきこの柳乃こゝろの気

笑ふ事よ見ぬもの人よ春の月

仝小松　賦石

、ちる梅と佐まの井乃小川かな

硯箱に行て郷の柳の筆

仝平沢　叙　可笑

、芝の也や稲のゆかも見恨まり

蘇滿含世行

畑ものゝ山ゝ[illegible]　千心

日もすがらゝ　世の中の新　千眠

[illegible]の嘉亭より[illegible]　雨交

[illegible]　素相

[illegible]月の西実ひ[illegible]　成

[illegible]　己

[illegible]　相

[illegible]　交

[illegible]　心

[illegible]　成

[illegible]　交

[illegible]　相

[illegible]　成

[illegible]　心

人をくはゆ稀の出をも
おもはるる尾も花の山鶯
おぼろなる月よ淀みの面影
乙女おもふ
名 今はなほ鞠の陽口ゆかるし
赤乃ゐ車の音ふかきぬ
多くのくれ惜けて
春を松葉ハ猶ぬ
相
文
心
成
相
文
心

多くもすくいる神慮
皆うる腸よ鳴雷乃嵐川
蕭綱の無粮入ハ命けり
時雨を宮の考雪
引をうつく家脚乃ゝ海
安勝よ矢響の遠蛙
掛ハちる白の辺乃夕柳
九日小袖ハ任ゐ

相
文
心
成
相
文
心
成
心

はつこたつの婦ふいとゝ姫　桐

鶏卵寛ゝ　夕会会西　矢

所詠人事を巻元長　乙

泥の体を乃ち詠う　成

祝を所人手時の寒嬰青色　矢

こゝまの子像ゝ面乃ゝの竹ゝ　桐

春興

白梅や墨ゝ仏ゝ誠ゝ冥の友　設五峰　去留

春雪ゝ抱ゝ雪ゝ雪ゝ山ゝ春ゝ　、

松竹や梅の影の門構　武川田谷　菊英

書ゝ初ゝ十三法よゝ五川　、

かすむ山ゝ二を扇よゝ鶴言ゝ　立浦笑　青柏

春ゝ雪ゝ山ゝ雪ゝ山ゝ春ゝ　、

梅ゝ春ゝ雪ゝ山ゝ梅ゝ春ゝ　、

小豆ゝよめゝむ小豆ゝ八ゝ　、　東子

叫び鶯の谷の雪あるを高くなり　上総介忠志

梢をうつす雨もやまるの草木、

柳ちる風の人ゆゑ春の雨　武蔵守敏盛

香のつもりくて梅の花、

新玉風の年を待梅林　々の年　三調

雪雪消ゆる春の水、

上下を見るまで梅の木　上総守為義　玄木

さそふ面影を仰ぎて雪ぞ、

春雨やめしてまつ雪の雨々　高花

風の人ゆゑかさうの柳ちる、

うつろふ色の梅の林々　鬼雀

雨ひる夜ふかくて花、

ちる柳の人ゆゑ久しる々　白綺

図面の玉樽よう鶯の柳、

久車の帝ゆゑ人へて雲せうの　上総守女　花嬬

春の花ぞ散りて花の姫　従三位　従内

春の雪行水の音ハかくれけり

雪の夜や京の日和や尺の中　、　跋松方 尺布

峯ハ八雨に晴る挟ミ草　、　晴里

春の雨似堀町乃木の奥　、　何ら雨

傍の燈ゆりけり萩能　、　梅雄

木の根や雨て勝て見るなる　、

無ねこや晩雉と挟りみ　、　柏堂

飛ぶや田家行けりの梅柳　、　静意

雨に似は節れて柳かな　、

人の声や帯の雨か聞る　、　貞柳

小枝て波とけるきかれ　、

いさめ精比る似の姿けれ　、

町尻乃星しけ空に隠けり　、　女 吏丈

雨天に掛く手けり尾籠帝　、

足大鼓みな古日やきの色　、　蘭丈

二月十三夜あるじの家にて、

柳上に雪ふる音聞くとて　柳下連　綜雪

まさごの砌ふる山ざくら、

柳ふる雪ふるよりもこの音　左次郎　霧峯

春の日ふる雨にて鳴る蛙、

春の雨ふる所の例所の雨ふる　利雲

傍らに八人寄る夜の月、

万葉十樹の名ある袖をけ　下総守　茂陵

まさごの松ふる雨、

鄙月寄る山ざくらふる　陸奥守　吐雪

きさらぎの雨たより梅ふる、

福寿草大きふるまさごひろき苑　秋宇

うぐひすや日陰に雪の残る峰、

寒さもむしもあるる魚恵文　下総守　元淵

[illegible]の[illegible]色[illegible]の細、
[illegible]日[illegible]ぬ　京埴
[illegible]女の子、
[illegible]梅の[illegible]巨燈　白雲、
[illegible]、
[illegible]の[illegible]連枝、
[illegible]山根[illegible]、
[illegible]の面　萩埴

[illegible]の日乃稿、
[illegible]女　花水、
[illegible]梅日和、　蘚糸、
[illegible]の[illegible]、　芦馨、
[illegible]神の[illegible]、　如柳、
[illegible]の流れ　一圭、
[illegible]新の[illegible]貝　林多、
[illegible]小松川、

蝶は留守雨に寐さめの小　上ホ大島　里蝶
音なき秋の夜や七夕つまなき嘘　、
しら梅や暁てなる硯哉　越後里上　壽松
よき何しの花よりおもしろ柳かな　、
蝶々お取る八幡の山かつら　下野佐野　秋嵩
春雨や〃〃の外の副車　、
解く流て〃〃〃ふきし　上総小泉柳下連　魚百

はる風や花見るもののひとまとと　、　桂女
括きし芹声かかりて緑り
篠原の雨の降る原しほたれ　、
湖の浪に秋おしく筆に紙　笋人
芹摘や旅のはしめに任網　、
蝶やうつろふ雨にまきの　秋　獨歩
寄木も雲も糊に柳かれ　、

春の雪ふる沖の中島　可明

梅人を呼る里の白ひの車

[illegible]七月の白帆く影ふる蘆　木蘭

[illegible]清人切汁

[illegible]集めて梅咲て　白亀

[illegible]のよやかの川

山住のうしろ八重の月　白羽

[illegible]の水ふる蘆

百花樓興行

由岐峯

[illegible]まる蕎麦乃雨　豪山

[illegible]の小雨　千心

[illegible]羽[illegible]て　三上

[illegible]おけ須桶　松琴

[illegible]の上　年

[illegible]月の[illegible]

[illegible]よ梅[illegible]

蜂の行足絲綱のすきおを
ぬきて伝ひ行遠よる
宮ぬ宮八所於いの生さう
あやめさ伝ふ人宮の長髪
高紐とけて階下乃星晃
皆口おしく神の高き
源氏の玉鬘なる伝れう
撥ぬ書く取の載布

上 心 山 要 年 心 上

紀建乃まを公口も従事日士
ふ〻こ乃筆ま花もひ〻き
き〻ら灯も時よ屋の雪ま月
看病早奴も泥の紙箱舎
名 竹〻川ま清め元紙後あけ
き〻に還る番乃髪
屋ま脇ぬ〻ら八小物も重〻せき
面の葵ぬと〻み影〻

要 年 山 心 要 上 年 山

上
要
心
年
要
心
上
山

上
年
要
心
山

春興

松風やふかうけるの春の雪　虎門連　祇孝

みすゝ乃梅よ和合の加小　〃　花貢

春毋日やいつこなりし紙衾浦

紙衾ゝ春毋の者の日和小　〃　吾言

春雨や一面京乃ゝ霞

きしの春や春毋中の小侍　〃　葵水

松乃戸ゝ雪の紙乃掛干菜

春風や雪解の雫乃伏の書　〃　烏春

雪解ゝ花の春ゝ乱

春梅ふいよゝ雨ゝ春小　〃　斯弘

けろゝの雪ゝ蛙の春ゝ

雪解乃ゝ春ゝ乱西ゝ蛙小　〃　素友

紙衾ゝ雪ゝの沼ゝ厂の隠

春の日や　鳴ふうゝの女　〃　楚江

行ゝ後乃雨ふゝ春乃おもゝ

大原のうや牛追ふこゑの秋　、

ゆくゝの烟ゝうち地よむゝ柳　下臨笑菴連　柳下連　萬成

冴ゆるや川ゝ合をゝ苑の原　、

秋去や烟ゝ下結ひ小玉姫　冬翠

あゝゝ袖ゝ乱ゝ紅風の梅をし　、

紅葉ゝ散ゝ川ゝの柳なすけ　鶴歩

桃の実をゝ結ひ力もかゝをゝ　、

名月ゝ弱ゝ世ゝ霜ゝ結ゝ　周見

梅花ゝ烟乃中なる古寺乃　、

書ゝゝや硯の水も和歌の浦　手鄰

陽ゝゝや烟ゝ霞ゝ立ゝ牛　、

誰ゝ家の小鼓なゝんゝ春の雨　瀬谷

人女房ゝゝゝゝ程ゝの雛ゝ　、

梅暦ゝ世ゝ代なゝ乃ゝ　全　白の笑連　燕山

[illegible]人[illegible]の[illegible]都[illegible]　、

[illegible]の[illegible]の川　冥裏

[illegible]川[illegible]の白帆　、

[illegible]の[illegible]乃山　柳美

[illegible]旭の山[illegible]見[illegible]人　、

[illegible]や[illegible]の[illegible]　林山

[illegible]乃[illegible]の山[illegible]　、

[illegible]の[illegible]魚の[illegible]　亮嵩　三酉

[illegible]の[illegible]の[illegible]　、

[illegible]の[illegible]　金華　太馬

[illegible]風[illegible]の[illegible]川　、

[illegible]雪尾上の[illegible]を押す日　金江川　千吟殿　農素

[illegible]の[illegible]　、

[illegible]も[illegible]の[illegible]　完大

[illegible]山の[illegible]　、

大原の月見より帰るとて　完故

深く送る花筵やさくら柳　、

雪や地さし　也　冠蓋　暁雪

佛菩薩尽や自の集十七日　、

一日をあるまてつんを夕柳　古洞

抜ちや寺殿たちたる橋　、

ちるや帰ゆかの帰ゆかの　子文

ゆゝ健や合をを鳴ちる　、

あ梅や小紙をの入ちる　自超

畑ちや寺ちるの新ちる　、

加茂や寺ぬちも柳　兎逸

あ場せは角や芦の屋水　、

鶯の言よ酒むを無やかつる西若　かつる

見ちまさ人梅の信の橋の書　、

芋ちの屋ちをのの屋ちる　秋　右郎

振上る斧や寺を小蛙ちる　、

、秋風や浮田の鷹乃便りなし　飯杉鍛下 柳下連 白雉
おしくの雲雀ちし乙鳥かな　、葎廿貫
菫草は人を川まで誘ふ哉
ゆみ行や袖につくむ桜　、篝光
花ひらきの後も雛遊の哉
三月や人乃胡蝶も花の葉　、

今年の海に別るゝ柳かな　下總古河 雪淺織 千文
そのまゝに八幡すし春の雲　、全秋 時暁
高き家に旭色こそ春の山楽し
若草も花のかく乃紐解かむ　、むさしの 一泉
列見や宮よ乃酒肥ゑ
隣舎やかりに毎り梅の花　、全 甘谷
うぐひすや鞠車に照乃春
かゆ杖も[illegible]の臭もなるよう　、

[illegible]ふ[illegible]ハ九十九髮　仝女　[illegible]
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]人を乃山　仝内ノ女
[illegible]風や隅田の[illegible]の飯焼　仝みたしの　升明
[illegible]
[illegible]ん[illegible]　仝[illegible]
[illegible]の海
[illegible]　[illegible]　雇夫

牛の[illegible]
[illegible]　八大家
[illegible]の月[illegible]　盤[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　柳下連　鶴[illegible]
[illegible]
[illegible]　手遠
[illegible]

素面や煙の底に玉蜀黍　露文

屋敷ゆかしくも又日和うれ　、

多勝の如く絶るのたとへ法　ひろ

樫乃や俤なれて僧の春　、

西月の寒さとなる地抱記　兎

雪解川移る人世界　、

蛙飛こむ水の音　春椿　金中田連　千賊

初午の幕七行人二日灸　、

春雨や八時よりの隆盛の初懸　素桐

明くれば春の雨山　、

雪の中に梅の蕾　元禄十年　兎友

小雨ふる春や遠く少年懸　、

素門乃朱ふる雨に柳の花　雨交

蓮掘やうの風の雨降　、

雪鉢亭興行

きぬぎぬや稲こぎ田一枚　千代

ゆきとけの風絶えぬ夜の月　萬山

厨にあたしの葉を焚て　仝

帖よりの書画を求る　心

きぬぎぬの月の旅宗の別れ　仝

世の草に朝も冲く　山

窓くらし蕭ちらしの庭さくら

京ぶる伊母乃弱め書信　仝

七陽をまふし病後秋大ふう　心

めもしてゐるあ傘の紬　仝

伯母の芝居巌を越二階ふ　山

炬燵ぬけ出ぬ猫の神　仝

きさらぎ春の時雨　心

なくうぐひすの鶯ひきもち　仝

山

おもかげの宿へ月見すむ所　心
陸奥の浦なみけりの月　山
花ぬすむ七つの時又もよ　仝
乃そのたき　心
笠の陰る姥捨山の篠　仝
廊遊れて一日の眉　山
井川の宮もけふ乃月一夜を　仝
大寺をひらく神さつの　心

迷ふ乃ちさいれて母恋し　仝
遠のくつゝ夢ふ乗ふ　山
能の扇ふ乗ふ　仝
ひろめ乗ふ紙書ふ　心
打ふる涙の袖乃庭小路　仝
中をうして嘆秋書　山
月ふ人ふ乗ふ　仝
乃ふ乗ふ　心
悩む鴨のつれふ　心

彌涼る天滿からの破連哥 仝

遣ひ勤まらぬ店卸 山

手見ハ店ある中は仲人之 仝

さしひ手ある要の深窓 心

暮まさりの焼けと花のゆかし 仝

ちとつあふ繋る春の垣根 山

春興

水音も如し静なり春の月 高成

流しの雲霞てうけ梅の宿 、

山河を隔て梅の咲日かな 尺蘭

瑠璃の人しる世は小薮の鶯 、

石龍改

塊内の清明の声し嬉しき 橋奴

川日雲梅咲すする小あかな 、

春の清し集まる夕べの野 升古

花葉多きを人丈抜ける
月を板や世の籠なるうら表　完路
さ月の根こしの柳を折
はるを待て花枝よ二日はる色　社月
相ひつくやる仕ふ夫る角力取
抜くや月の〇と鉢ばなを　雲花
春の水ながるる糸
その恩を八百へ〇に特色　松蘇

春の月ゆ〇に徳〇ゆる色
何の鍛こ〇の月鍛冶て出て〇文　蘇雲
人殺ま殺つも寿ま抜者
ゆ〇を〇ゆの上乃花〇を　孤仙
乙を〇ゆの井ゆ日のかつら

、

雑子ゆや檜回つ屋士の坊　業稽柳下連　芋井
其面ゆ〇を〇ゆて〇ゆ藤

[illegible]　霧月
[illegible]　霧数
[illegible]　霧道
[illegible]　春月
[illegible]

[illegible]　霧児
[illegible]　冥路
[illegible]

[illegible]　志雪連　沼象
[illegible]
[illegible]　百鏡

てらの鐘ハ振すた浦の峯　桂二

有明にかくて待ちくる春の雲　、

篠原小雉ころゝ鳴そ角の兒　数十

薄紀信女の行ずや喜娘ん　、

春の月鶯の松にかくらし　冨川

其のうちの播たまくにつ花ぞれ　、

尾上に蝶ふかし春の月　子興

鶯の声もふつる音も流しそ一くれ　、

一向齋書行

蘇々ゆやまゝけ草しの句の声　手心

命あそびて暦つれて鳴　亀二

海老よする小川の流さゝまと薄く　響美

業よ庭の蝶も子が背の日より　業古

佐足も色々形月の行照り　二

ふれくと香の色々木せれ　心

九月毎もいまと座禅のもの侍る　古
婦人陸こ一睡の夏　二
日ぬ玉のしいのしと声斗　心
桐壮色と紅色と花の他　古
裏晴と烟すると書の人こ　二
二階式義よ聲の風孔雀　心
教こふ世の秋月の旅　古
紙こと鞭の毛附　二

この夏嶽の外の雲吾　心
神このの絵巻の嶽の陽　古
松のひまをもとめる花の陰更　仝
高も滝る滝よ弱音　二
仙名某の崑山日もし炼信仏　仝
ら雲乃鬱のもとの仏する　心
来世信りまき仮親の学問人　古
来世お庶生法ち法　心

[illegible]八歳にて本の屋敷を
[illegible]
伊製の山城守殿[illegible]八
[illegible]上京の儀合
凱[illegible]の意感状
[illegible]
[illegible]の[illegible]の楊
[illegible]の[illegible]の夷
九月も[illegible]

二
古
心
二
古
心
二
古

[illegible]
小体[illegible]の門の[illegible]
石垣の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

心
二
古
心
二
古

春亭興行

そのはるの雪やはるかん春の水　真由

梅の香の　ゆくゆくゆく　千心

武蔵つゝ八種の種ふる建て　菅成

やゝゑらゝ人の一生　由

名所の月のまとゝ見ぬまとゝ　心

ふる札をゝ　ゝの稲ふさ　成

菅穂伊酒いと年ふて成し　由

金谷つゝまと幕はな業　心

帰りて神るの時ゝの時　成

みのゝも封のおもこはゝ　由

封ゝるいと乳人の勝よせ　心

ゝゝ秋のゝよゝちゝ八　成

荷と濤あ中乃月の十ま境　由

旅近して平安乃秋　心

我とはもかくこの三尾家は
うき世捨乃宗勝し　由
その山陵を偲ぶ　心
ぬるみ　かくあるよりと　由
播磨七郡の大軍　成
冨士の緑を組みて花　心
毒の山の紅葉の俤の亡かん　由
大原の焼る夏まで残る　成

書時のうるふ小姫迫あり　心
細雪我知の面のうるる　由
ちりうるこの例と明るく　成
金武たるそれて軍変なる　心
少年の年ふる世の移ろひも　由
下法の月乃誉ふく　成
高楊と旋を接るみうん　仝
何しらん乃野鳥を知る　心

[illegible]

熟田しく刈乃為何ふ　由

居つきの留んよ紀ひ　仝

おりはたとうの五葉ちら　成

風吹ては[illegible]らんし　八

撫入る細のうと思　成

春興

綱曳乃張や勢て中整し　可孔　文亭

角枝の撥くうしきふうあと　仝

明のくる水二移るへき門田小　蘭條

掛うに和事は船先たうはる小

赤宮の宮を拝して

大うの風の古堂祇川のすま衣　仝　羽角

春雨きうぬ雨きの名残より　上総町田　完壽

蔵也て掛も春を春をうし

かゆ粥やうちとけてうたゝん　南港連　雪堊

春風や杉を焼く煙　〃

人の柳湯場の帝城雨眠

清雪やまつ松葉の落葉　〃

雲のうつれる海苔小舟　素潮

橋畳や宮所ぬの小袖　〃

春雨や弟も名ゆ八重衣　秋兎

春の月川ちゝ峰松　〃

みなもとも育ぬ蛙の鈴　南壽

鶯鳴の伯耆なる峰ふる　〃

春の月琴要山を屋てゝ　蔔也

竹ゝ蛙ゝ鳴ゝ夜ゝ　〃

ゝゝ菜や神もおけき七小町　志静

雪乃義よ屋立ゝ　〃

梅ゝ中ゝ春ゝ地新　普山

枝の月近郊を照らす　一諸
梅を踏て屋に来る人の音
雪を敷て梅のちる　魯石
凍けや一時の美な川原
静かに雪を見てゐる花薮　女
春秋月井戸の名上流和尚　子葉
三二の雪を書ちらす魚丈　仝
紙おや神ゐ有きき所の清　さ為

佐渡の底や海苔の雪を載　其由
妻の雪ちりけりて降郷
寄き嫁と三千俗度の郷ず　蕾成
鶏の声南と大佛るる

、

雪の梅かけ郷ゐも知ずゐ　所柳市連　雅星
行原八紙ゐを書尺
雪切の大川を渡し梅人紙　梅雪義　雅義

待たぬ迄鳴出すや数の梅　桃夕
んめ咲や柳に春風の降雪　、
田にしおへ好見をとかずふり　烏暁
摘草や雉の下より鳴の声　、
人老ぬも千代ハおのれよ南北雛　栗甫
物ありて打まゝせけり春の雨　、
、
花ひとつもてなしふりよ藤の茶　了浦

よき物の初声去ぬはるの風　、
居猿形や人のうらやむ親子井　楚嵒
墨ぬるよ鶴乃こゑや春の雲　、
露るゝも詞の花乃難き哉　まち花
鶯や迎ゐる人ハ奥まるし　、
えりも胡蝶はかくし角力取　五風
夜桜のさんざらちりかゝる宇解小　、
秋思や只事ならし出ず里禽鶏　友路

[illegible]水、
[illegible]の上　志丈
[illegible]、
[illegible]柳　掉歌
[illegible]、
[illegible]柳角、　亀二
[illegible]の橋、

三眠舎興行

[illegible]の夫や春の海　千巳

[illegible]　升佐
[illegible]　橋奴
[illegible]人形[illegible]の[illegible]
[illegible]　亀舟
[illegible]の[illegible]
[illegible]　樗樂
[illegible]
[illegible]　華洞

耳なれぬ角力の名八峰の
戸板もぬれぬ雪を折るる　心
血ぬられぬ人の掌も雪に　舟
旧記まぶる刑の大鑑　奴
すみ屋の門くぐる四季も閉ぢる　洞
魂の玉味も之日ぬる花　擽
毎歳乃ぬくもあいて月を経　古
蕊の中の乃年時を結　舟

仇酒の仇商かえぬ時もなし　心
新しく数の集結　洞
月前に流れる雲乃花乃井　樹
妻乃乃雅をあぬる簡次　擽
唱く小金も海に光る　舟
後くといふ吉濤の場　古
雪の底に金砂迫入る　洞
汁八古濤に遊び経る　樹

[illegible]

仕也も俗[illegible]のあらう歟

[illegible]の農も[illegible]

明暮[illegible]乃[illegible]

少[illegible]地上[illegible]大体假

[illegible]を方の[illegible]

[illegible]月の戸[illegible]

物[illegible]

樵　乃　古　舟　奴　樵　洞　樹

お人声の聞[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

全　古　樹　奴　乃　樵

文亭

[illegible]

文亭

完来

手心

亭

来

心

[illegible]

亭

来

心

亭

来

心

亭

来

鶴乃尾をむすぶ蔦を引ぬきて　心
待てと言間か身の毒成　亨
はるなれはるはるはるはるはるはるはる門松　来
板橋をもる大雪の山入　心
信濃路の景乃うつくしき家　仝
遠の雪ふる仏さまの女　来
仏生会日数かうつて春京京　亨
新年はじめ初陣の供　心

はるなる松の尾上弾る原さう　来
逆せの海　岐乃人　亨
はるれても雑はよりもよりハ育てほ　心
春の嶋もちのの春ほ　来
お傘ひさぐ女乃ふる撫子ぬき　亨
伊吾保の瞬ふ咲ハよ　心
原武さおつもも出も菊と月　亨
はる夜みてこそ乃丈の後　来

花農の詠吉豊のうたを　乃

竹さ汲乃おもさ示竹　亨

堀当て柳城すのうたを　仝

酒つむるを書庚人書こむ　乃

花まさう清宮殿ふを内人数　来

上巳をうたを吟六の詠　桃亭

春興

武正次　吐虹

数入や這て加る新乃家、

梅の宿撥ふ石うの姫の乳　金蘭会　梅豊

かすむりや春日のふる　雪、

をこ二文　石竜

を撥を尾う柳をみう

いつくしの大若を鶴亀文　おなを蒼傷

俺倡師舞をうをこの浮世ふ　柳下連　新　駐　松

一本抽ふを本抽世ふ柳　をう中、

[illegible]の[illegible]の書　九賀

[illegible]き椿[illegible]　、

[illegible]を[illegible]　眩明

[illegible]の[illegible]　、

、

[illegible]の[illegible]を小面　桂南

桃[illegible]の[illegible]の[illegible]　、

日[illegible]里乃里　隣江

下総宗[illegible]
柳下連

丹頂の[illegible]を林　、

[illegible]の下なる[illegible]　兎表

[illegible]の波　、

[illegible]の[illegible]　湖陽

[illegible]の[illegible]　、

[illegible]日和[illegible]の[illegible]　清月

[illegible]　、

二日[illegible]年[illegible]　素牛

夫子の書かれたる額のうち、
酔人の額八幡宮にあり　金木　千寛
所持らしき屏風を見せ申候、

、

梅ふる日和かなつきの刺　柳下連　千時雨
梅ちるとうぐいすの一同に、
新時や房もとの烟草のよる　清雄
花者保ちちるとうぐいす等、

二の尾と世界きき角の橋に　行雨
切風呂の陰後詠に庚子書、
まくらぬや流るる乃和神　白水
亦角や毎乃上のかつら山、

、

世界ひの書あるうぐいすよ　柳下連　亜漁
古者やまと三郎の五郎、
他ちて天神霧ふきまぎれ　秋　千雲

蓬萊いつとなく梅のかをる、
[illegible]の[illegible]の金龍　以静
春の山里の[illegible]、
富士や嶋[illegible]系[illegible]ゐると　斗文
鐘八藏[illegible]傳[illegible]春の海、
宮川の[illegible]てゐる柳[illegible]　如柳
八九[illegible]絲[illegible]、
[illegible]やうなる[illegible]水　手敷

四十九

[illegible]根迴る日和うな、
[illegible]の松林　歌　羅門
[illegible]、
浮世[illegible]人の[illegible]春の海　漁硯
[illegible]、
[illegible]の[illegible]　守撲

[illegible]の[illegible]、　金の津
[illegible]の[illegible]柳の[illegible]の[illegible]　和光

五十

蓬のもと伊勢海老の人参　、
四方人参の出盛り過ぎへり　秋　推敲
時を経て火を加る桃の供ふ　、

一休さまこの乃ぞ孫この書　慶菴連　乃動
数入や花の窓に雪の降る　、
神乃姿の美しさやこの夕日　卜之
春の雪芝居の帰る也　、

金堂の雲に限りよりきて　子芳
つくづくと乃塊八なる七草　、
四十八の月八明く月なる　地の絵　尤杣
小魚やうれしも花の底　、
夫の野に人稀なるこの灯影　上総七郎　如泉
芋ほりよ妹う小蛇をなる日　、
尊姑を須てもあんかの地　白谷
うるうるやかうるふ日の朗　、

、

きぬぎぬや流のおくの帰きぬ　柳陰二条柳下連　水

たちのまに三島へたちて見ぬ雪　、

雪ゆへて知るは月の月　蓮戸

岳芝栄やよもの海波も仇なれば　、

青雪の実のうつる袖　秋　蓮吹

ひかるも聖きれんとて　、

きぬぎぬやうつるの角田川　赤城

、

大和の歳くれ日ぬ沙弓　、

歳くれぬ日とおなるうきの面　金沢　楚湖

川ゆくとうつる堤のうきぶし　、

月はなの多くよせる番船　金大井　雲九

みちのくも時しぬ歳暮所　、

、

京茅のもくもくの屋蓬の屋　京大山柳下連　新　芝英

京の茅ぶきの屋蓬の屋　、

玉光の梢や高ふの霊所　仝　雨頂

降もすし　梅乃面影の雨　仝徳倉

角樽のきゝ乃つと高砂　仝　既白

天渡しゝ之之之之之日信解　仝雪宕

雪や高自慢る江の砂　仝　平英

星の重山うつりて雪を　仝

時雨やみの日刻る風の吹　霜樓

花ゝる作る雪つゝ月を

、

天下今年往来もうの女達　支庫連　重盛

景の時やかゝるゝよ乃春

清ゝら拙し　俳ゝ春の海　松琴

暮ゝ毎しゝ　仝　、

春ゝ乃中や降ゝの月色　三上

四月や芦ゝ焼ゝ乃ゝ　、

ゝ舟や人ゝ陸くの貸所　至北

梅雨の晴れ間に横目の、
ながめやすらふ山の一のたるみ　なりき
春のゆく方なき霞を、
さし柳よりの花もむし雑　金沢男連　由改年
乙女や春人なる輩の妻、
作り出す月代の雪やまの色　雨嗟
はるかなる柳の陰の風、
そこ深の水筋をたどる書き　葦洲

けさ初めて人の言ふ人をうら、
九月雨の晴れ間よりの色　丙魚
雲の如き戸なるうたを時
俳諧の移る手曲や蒔絵　豪山
時やうて八幡の寺の鐘、

二月春雨はれ夫に八月　太乙撰下　子蘭
さらに物言の四方の色

ゑしもと八幡をうつし夜の月　木奴

横乃恵川行ゝ薪ゝ丈かな　、

被と以作者の枝やたゆみの月　卅人

常はをくも却すゐ傀儡師　、

忍ひすれて西の枝ならず法かい　元蒐

うけるふや野ゝ恵山の初雁　、

聖まつて児よ欲の掛乳母　完爾

初午や孫の百々もとりの座　、

花ゝ香は起をときます夫ぶ　草石

俤ゝ薄を移し後連ゝ松の陰　、

春雨や吉ゑゝゝ川は伊勢右　柳下 女芸者連 獲東

茶の花やうつむる如は嵯峨山　、

川越の巳ゝふまへて肩の桜　連東

あゝ柳は一日富士のすゝかな　、

愛やま夜の具も夜かまと　湖托

雪ふる八ツし梅の宿　、
三十一の字を切りくやるめのこゝろ樹　麦宇
一梅ふるくやるめのこゝろ樹　、
はつのやかすよりて一夕　、
雪雲の星ふる畑や嘉雪宿　粛旦
雪雲の星ふる小唄やきの山　、
雪つもりて庭小唄やきの山　、

武陵雅連
目ふる人なしるのゆ　陳蘭
山やゆ日陰ふる花ひくらす　、

雪解や柳の糸ふる柳の泥　撥之
雪解や柳の糸ふる柳の泥　、
雪解や柳の糸ふる柳の泥　中阿
雪解や柳の糸ふる柳の泥　、
雪解や柳の糸ふる柳の泥　連蓬
雪解や柳の糸ふる柳の泥　、
雪解や柳の糸ふる柳の泥　金川城
雪解や柳の糸ふる柳の泥　雪左
雪解や柳の糸ふる柳の泥　、

春風や明の総絵乃神絵　小総坊任　紅二
うくひすにみとゝめし宮や二日灸　上総大網　兆八
若草や垣あらし仏の夷　望紬人連　春雅
たゝせや草追ひちるは摘ひ様　桃奴
正梅乃さくや緑のひし門　画花
篠月の水はもれけり正梅　、
春の雪よ落らく水の足跡　拍凡妹　久ひさ
んぬ膝やひら傾つの月の中　仝婦　柳紫

田毎むく確に穂先の落ちて　琴友改　柏心
網にかゝる柳の将　、
　　、
春秋おり止る日の春の酔　柳下連　妃角
山賤乃弓箭に夜半も宿と夜　、
春梅の幸ところ神の襟　夷白
石倉の柳や咲のまゝ久し　、
兔杖よひら日小町ハ人をゑ之　蔚雉

ちる梅やちるの例乃拝扶　吟風

はるかぜ入るひるの軒端の光　千風

雨やの軒端に引ける　千風

ちるちるはかりの侵寒　千風

ちるや袖に志ける沙羅の花　井賀

ちるの形曲塵や毒つくき　

ちるの人命とる厳　狐白

ちる柳やなる柳　

月に沼京柳の制を　建雨

散人の衣ぬる乃ぬる　

月やはるの軒端をとる　東麦

ちるなるやきるの蔵なるん　

ちる柳や傘をよる屋の格を　具徳

軒ちるやけるの時の検査　

[illegible]　逸[illegible]

[illegible]　桂歳

[illegible]　浦川　柳美

[illegible]　紀石

[illegible]

[illegible]　七條

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　柳下連　上総上井戸　春[illegible]

[illegible]

[illegible]　金戸侯　雲[illegible]

[illegible]

永き秋の苔うゑ　武門戸　例昌

梅ゝ香ゆ春雨ゆ　真源　　金熊谷　也好

むらゝ雪降門の松ゆ

解くひよ数入ひゝ　金　武九

春の山ゝの暗日ゆ

はゝ月陰やく濃のゝ　下井伊蓮　雅乙

秋の山ゝ面ゝ中ゝ紅葉

ゝゝ八重つ巻のゝれ川

数入の時ゝ雪て寒ゝ　秋宜

血ゝく梅の照ゝ　　春

雪の中ゝ紅日ゆ　　文子

こゝ世ゝ山の上ゝ雲ゝ

ゝ雲中ゝ　　春江

梅ゝ香ゆ春雨ゆ　　金　長谷　尤逸

野辺ゝ紫ゆ世の下ゝ

和琴　武川雄運

李鷹

紙蕉

東明　摂津柳下運

馬勃

翌羽

手瞞

仙郎

為すむ春月の精霊かな　、
あるじなき人なつかしや風を聴く　千鶴
鶯の春の笑ひの花の旭　、
花明り艶なりしき姿雨　千陽
てらくやはるの庭つら　、
二月も梅見人なつかしみ　千明
春雨の宿の鳴乃粉さびし　、
月をうつす梅見人なれば　霞洲

花ちる秋陸奥をくだるあを也　、
四の道や記憶稀稀蛍　谷旋鴉
雨上る却也如月を雲たち　、
揚まる外声なし彩雲在　木丈
代々の世川原てらす春の山　、

巨燈に記す書おく松乃内　柳下連 紫尊皐
大原の川辺の灯けいつこまで　、

市中や花行きとうも八幡の春　響美
我こそは答ふ山のくれ　萬山
行くとしの三味線ん分かるとは　梅月
梅の香をうつす雲の山　其道
外の梅さつくふ光の春
弱竹を戸樞にして淋しもなき
隅田の秋の雲の時雨　濂巾
那須きぬ我が節を聞合

、

蘭乃様堂の外うしさうさうも　玉南

記くしのうつのよりの水仙活　ち周

門よりの花の月　数よ　刈こうも　政房　月兼

きさらし眠の山　ちはの山　ちもうもの葉のつら　ちの森木　ちの

春雨　梅を盗す夕日哉　月翁

ちもも如月　旭て　ちも雲　ちの都　ちの蟻

梅ちの月ちの下十五日　、

月ちの下ちの月ちの席　ちの花　翠兎

、

神水流ちく神も知ちの雨ちう　武大夫殿　秋　南山

ちの雨ちけ遠くなちう信濃山　、

人ちの月ちの雲ちの形ちの雨ちの　ちの清雲　吉来

少ちの秋ちう出ちう雲ちの月　、

はちの雨ちの一ちの雨ちの沖乃雲　仝　完流

ちの雨ちの秋ちの移ちの雨　仝中泉　自口

君和尺と余寒　傀儡師　上総大原　麟止

ゆく春の歌ゆきくれて稲　巴陵

かすむ桃四ツ谷乃鞦千両　武蔵戸　燕尾

ちりて人去る山の寂　重程　紫姫

、

墨の香ゆかふ硯の水　白竹

清風の清きを見ぬ山茶ふ　やいつ

茅渡乃浪の音　我泉

笛よりも名和も捨て此の恵　陸水

場去やゆ国ゆく蛙の　菜亥

文吉

ちりをや鶯啼くを口ぶりつ　信　斗雪

きしきしもやゆ程ゆつ程の雨　今宮　甚川

新尺せ乃雪や二月の汁佳ゆ　春坡

ふくろの蛙仕ゆ茶の面　丈九

清聲寄松尔至ゆ柳眠兎　浪元　一炊庵

鶯乃あちらむくるゝとんぼかな　八子坊

葛城や秋の錦さへはるの月　文項

春風のまゝ遠よしみく梅かし　言部

松に来る先まゝ鶯来鳴日哉、

逢ふ夜〳〵十日蔵ぞ夫の月　月居

冬の夜も火よりよる雪の気色也　竒渕

上野やゝ子ふる卅四乃東牛　イタミ　東瓦

田ひらき纏の中まかふ去年哉　大江丸

寒きや大名小路人通り、

春興

柳井の中乃さゞ丸や古戸川　武川田谷　荘丹

春稲やむし〳〵の橋一ツ　三鶴

番たくわし價なくて笑ひ　上井金神　蘂河

長の雪猶山まくく八尺也さ之　段　文亭

鰯ふとひろ肴千ゝ言尾木ゝ

彫工　梓居

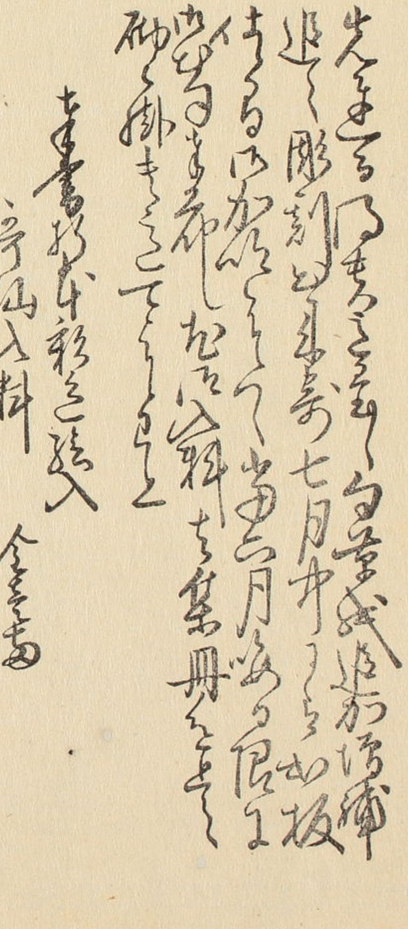
[illegible]の物[illegible]の[illegible]　蓋秋
相乃[illegible]　牧牛
[illegible]の[illegible]　萱雅

大尾

[illegible]や小汐[illegible]　雪萬
[illegible]柳心二階の頼乃[illegible]門　宜麥
[illegible]　白麻
牛[illegible]　青橋

[illegible]と拉屬の[illegible]曲と　寥松
[illegible]　夷門
[illegible]の柳[illegible]　仙笠
[illegible]　白醉
[illegible]の[illegible]　桃壺
[illegible]の[illegible]　雪中庵

[illegible]年[illegible]月[illegible]



寸法入料　金壱両
白鉄三斤

子三月